

電材と建材の 融合で生まれた 安全で経済的な スマートハウス

和歌山県のホームビルダー様が、
当社の耐震工法「テクノストラクチャー」で
モデルハウスを建てられました。
創蓄連携システムに加え、
「スマートHEMS」や
「AiSEG(アイセグ)」対応家電などを備えた
この家は、安心・安全と経済性、
さらには快適性をも兼ね備えた、
先進的な省エネ住宅となりました。

和歌山県田辺市 株式会社タナベハウス 様 「スマート・ハウス」



■ ご採用機器

- 住宅用 創蓄連携システム
- 太陽光発電システムHIT233シリーズ
- 住宅用リチウムイオン蓄電池ユニット
- パワーステーション ・ AiSEG ・ 住まいるサポE型
- EV・PHEV充電用 充電スタンド「ELSEEV(エルシーヴ)」
- エコキュート、エアコン、IHクッキングヒーター (AiSEG対応)
- シンフォニーライティング 他

所在地／和歌山県田辺市たきない町

10年前に予想した 家電が家の主役になる時代

世界遺産「熊野古道」で有名な、和歌山県中部の田辺市。
株式会社タナベハウス 代表取締役 木村勝次様は、お子様の
健康のためにと、大阪から自然環境に恵まれたこの地に転居し、
起業されました。ご自身が住宅ローンを組んで子育てをした経
験をお持ちのため、子育て世代が給料の範囲内で購入でき、
高品質で安心・安全な住宅を提供しようというのが、木村様の
思いでした。

タナベハウス様は今から10年前、「住宅の未来は、フルパッ
ク化された家電が主役になる」と考えられました。そこで家電
メーカーである当社の「パナソニック ビルダーズグループ」にご
加盟いただき、以来、木の家に鉄の強さをプラスした高耐震住
宅「テクノストラクチャーの家」を、累計約250棟、建築してこ
られました。

「ここまでできたか」 見学者から驚きの声

2013年4月、田辺市内に完成したモデルハウス「スマート・ハ
ウス」は、木村様が「ようやくここにたどり着いた」とおっしゃる通
り、10年前に木村様が予想された未来の住宅が実現したもの、
と言えるかもしれません。

工法は「テクノストラクチャー」。太陽光発電システム「HIT233」
(15枚、約3.5kW)と「住宅用リチウムイオン蓄電池ユニット
(4.65kWh)」による創蓄連携システム、「スマートHEMS」の中
核となるコントロール機器「AiSEG(アイセグ)」、「AiSEG」対応
のエコキュート・IHクッキングヒーター・エアコン、屋外にはEV・
PHEV充電用の「ELSEEV(エルシーヴ)」などを備えたこのモ





(写真左)太陽光発電システムで創った電力は、リチウムイオン蓄電池との創蓄連携システムで有効利用。売電も可能
(写真右)屋内に設置された「リチウムイオン蓄電池ユニット」。小型で高容量

デルハウスは、優れた耐震性と高い省エネ性を備えた住宅として、長期優良住宅にも認定されました。住宅性能表示の全8部門は、いずれも最高等級です。

「AiSEG」を通じてご自分のスマートフォンなどからエアコンやエコキュート、対応家電などの電源をOFFにできることを体験した見学者の奥様からは、「住宅もここまでできたか」という驚きの声が聞かれたとか。自社の技術力の高さを十分にアピールできたと木村様は喜んでおられます。

家計にもうれしい 「奥様が喜ぶお家」

「スマート・ハウス」は、奥様の負担を軽減してくれる住宅でもあります。エコキュート、エアコン、IHクッキングヒーターなどと「AiSEG」がリンク。電気の使用状況を見ながら自動的に省エネ運転。電気代を気にして、こまめにON/OFF操作をする手間がはぶけます。将来、冷蔵庫、洗濯機なども「AiSEG」対応になれば、さらに快適な省エネ生活ができるうえ、家計も助けてくれます。

スイッチひとつでお部屋の照明を切り替えられる「シンフォニーライティング」もご採用いただきました。特にLED照明ならではの「即時点灯・即時消灯」の快適さが、見学者の方々に好評だったとか。

キッチンが広がりを感じられるよう、奥まで照らす照明設計がされ、下からもライティングすることでキッチンに立つ奥様を美しく演出する配慮もなされています。

木村様は、「これまで住宅は、建ったときから価値が下がるものだった。ところがこの家は、太陽光で発電して売電し、お金を生みだす。それに美しさや省エネ性なども総称して、“奥様が喜ぶお家”と呼んでいる」と、説明されます。

柱や壁の少ない開放感 配線も壁内にすっきり収納

見学者の方は一様に、住宅の広さにも驚かれました。「テクノストラクチャー」はテクノビームの頑丈さから、柱や壁の少ない家が建てられます。タナベハウス様の「スマート・ハウス」も、天井高が2,800mmあり(一般の木造住宅は2,400mm)、リビングは大きな吹き抜け空間になって開放感にあふれています。

家の中をさらにすっきりとした印象にしているのが、電話やLANの配線を一つにまとめる「まとめてねット」。ここから壁体内に配線が通り、各部屋のモジュラージャックにつながるため、見た目にも美しいLAN環境を実現しています。

電材的要素が家づくりの核に 将来は家がインフラに

木村様は「IT社会となりネットが普及して、LANやHEMS、創蓄連携システム、家電など、従来はビルダーが部外に置いていた電材的な要素が今、家づくりの核になりつつある」と、時代の変化に驚いておられます。

「耐震構造に最新の電材商品を揃えた、ミュージアムのようなモデルハウスとなった。ここまで来たら次のステージは、もうロボットしかないかも」と木村様はおっしゃいます。そして「車と自宅の電気は自家発電で自給自足という時代に向かうだろう。家が社会インフラの一つと考えられるような時代になる」と予測されています。



株式会社タナベハウス
代表取締役 木村勝次様



(写真左と上)目的別にあかりを配置し、明るさ感やくつろぎ感を得られるシンフォニーライティング。生活シーンに応じてあかりを瞬時に切り替えられるリビングライコンを使用



エネルギー使用量など、さまざまな情報を「見える化」する「住まいるサボE型」

